

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
マーキュリーカップ	2018/7/16	JpnIII	盛岡	2000m	ミドルペース	良	コース適性

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	コミュニティ	牡8	54	山本政	ブライアンズタイム	ロベルト系	ティンバーカントリー	ミスプロ系	D	B	D	D	D	D		
2	2	ポイントプラス	牡9	54	村上	グラスワンダー	ロベルト系	クリスタルグリッターズ	ナスルーラ系	D	A	D	D	D	D		
3	3	ザイディックメア	牡6	54	和田	ゼンノロブロイ	サンデー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	B	B	B	B	B	B	△1	
	4	マイネルパローネ	牡4	54	山本聡	シンボリクリスエス	ロベルト系	アグネスタキオン	サンデー系	D	A	D	D	D	D		
4	5	エンバイアベガサス	牡5	54	菅原俊	エンバイアメーカー	ミスプロ系	Distorted Humor	ミスプロ系	C	B	C	C	C	C		
	6	ミッキーヘネシー	牡9	54	永森	ハーツクライ	サンデー系	Hennessy	ノーザン系	D	B	D	D	D	D		
5	7	ドラゴンエアル	牡7	54	服部	タイムパラドックス	ロベルト系	クロフネ	ノーザン系	C	B	B	C	C	B	△3	
	8	ヨシオ	牡5	54	戸崎	ヨハネスブルグ	ノーザン系	ケイムホーム	ミスプロ系	B	A	D	B	B	B	△2	
6	9	マイネルバサラ	牡5	57	柴田大	シニスターミニスター	ナスルーラ系	サザンハイロー	ハイロー系	B	C	B	B	B	B	▲	
	10	ミツバ	牡6	55	松山	カネヒキリ	サンデー系	コマンダーインチーフ	ノーザン系	A	B	A	B	A	B	◎	
7	11	ヒドゥンブレイド	牡8	54	坂口	シンボリクリスエス	ロベルト系	Storm Cat	ノーザン系	D	C	D	D	D	D		
	12	プリンスダム	牡7	54	阿部	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	C	D	D	D	D		
8	13	シンゲツ	牡7	54	斎藤	ハーツクライ	サンデー系	Forestry	ノーザン系	D	C	D	D	D	D		
	14	フェニックスマーク	牡4	54	横山典	シニスターミニスター	ナスルーラ系	シンボリクリスエス	ロベルト系	A	B	B	B	B	B	○	

隊列図	見解	ラップタイム
ヨシオ マイサ フェニ ザイデ ミツバ エンバ ドラゴ コミュ ヒドゥ ポイン マイロ ミッキ シンゲ プリン	盛岡競馬場のダートコースの特徴といえば、なんといっても“高低差があること”だろう。非常に起伏に富んでおり、高低差4.4mは地方競馬場の中で最大。盛岡ダート2000mはスタートから坂を上り、3～4コーナーにかけて一度下るものの、直線に向いてから再び坂を上るという2度の坂越えがあるコース。ただでさえ、ダート2000mはタフな条件だが、それに加えて2度の坂越えがあるため、同コースは消耗戦、スタミナ比べになりやすい。今年のJRA出走馬は一長一短。まずは盛岡ダート2000mへの適性がカギになるだろう。それでは予想にいきましょう。 本命は ミツバ の連覇が濃厚と見た。昨年は14頭立ての2番ゲートでやや乗り難しかったが、直線で外に持ち出すとしぶとく伸びて前々で粘るピオネ口、クリノスターオーを交わして差し切り勝ち。今年は14頭立ての10番ゲート。昨年よりもレース運びがしやすく、相手も昨年と比べて特別に強くなった印象がないので、今年も勝ち負けに加わってくるのではないかと。(以下省略)	回顧 次走狙い馬
ミドルペース		

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	コミュニティ		マーキュリーカップは過去2回挑み、14年12着、15年7着と完敗。現在は過去2回の挑戦時よりも勢いがなくなっており、参加するだけで終わるだろう。		
2	2	ポイントプラス		南関東でアタマ打ちになり、岩手に転入。ダートグレードでは荷が重い。		
3	3	ザイディックメア	△1	前走プリリアントカップで2着に好走。前述の通り、東京ダート2100mと盛岡ダート2000mはリンクしやすいので本馬も当然注意すべきか。血統的にもゼンノロブロイ×シンボリクリスエスとスタミナ豊富なイメージで、盛岡ダート2000mは合いそうだ。		
	4	マイネルバローネ		地元のA2組を勝ち上がれない現状。苦戦必至だろう。		
4	5	エンパイアベガサス		地元の代表格だが、昨年の浦和記念では勝ち馬マイネルバサラから3.7秒差の6着と完敗。地の利があるとはいえ、健闘しても掲示板までだろう。		
	6	ミッキーヘネシー		昨年のマーキュリーカップは勝ち馬ミツバから1.7秒差の7着。今年も上位争いまでは難しいだろう。		
5	7	ドラゴンエアル	△3	昨年のマーキュリーカップ5着の走りを見ると、JRA勢のオープン馬相手ではやや厳しいかもしれないが、盛岡ダート2000mへの舞台適性は高く、JRA勢5頭のうち2、3頭が崩れれば、本馬にもチャンスが巡ってくるだろう。少なくともエンパイアベガサスよりは強いはず。		
	8	ヨシオ	△2	単騎逃げを打てそうだが、連闘、コース替わりが気になる。スタミナよりスピード優位の馬なので、二度の坂越えがある盛岡ダート2000mで最後までバテずに走れるかは半信半疑ではある。		
6	9	マイネルバサラ	▲	17年浦和記念1着、18年ダイオライト記念3着と中長距離のダートグレードで結果を残しており、盛岡ダート2000mにいかにも合いそうなタイプ。前走アンタレスステークスは前半1000m通過60.2秒のハイペースで飛ばしてしまい、参考外の一戦と割り切っている。		
	10	ミツバ	◎	昨年は14頭立ての2番ゲートでやや乗り難かったが、直線で外に持ち出すとしぶとく伸びて差し切り勝ち。今年は14頭立ての10番ゲート。昨年よりもレース運びがしやすく、相手も昨年と比べて特別に強くなった印象がないので、今年も勝ち負けに加わってくるのではないかと。		
7	11	ヒドウンブレイド		元JRAの2勝馬。岩手に転入後は地元の重賞でも4、5、4着と上位争いできず。ダートグレードでは荷が重い。		
	12	プリンスダム		近2走でエンパイアベガサス、ヒドウンブレイドに完敗。地元馬同士でも分が悪い。		
8	13	シンゲツ		南関東のB3でアタマ打ちになり、盛岡に転入後も変わり身は見られず。ダートグレードでは参加するだけだろう。		
	14	フェニックスマーク	○	過去のマーキュリーカップ3着以内馬を見ると、東京ダート2100m勝ちのある馬が目立ち、前走プリリアントカップ勝ちは昨年のミツバと同じパターン。盛岡ダート2000mと東京ダート2100mは同じ左回りの中長距離戦なので、リンクしやすいのだろう。大外枠を引けたのも大きい。		